

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名	所在地			
専門学校岡山情報ビジネス学院		昭和61年7月26日	学院長 三村 光	〒 700-0024 (住所) 岡山県岡山市北区駅元町1番4号 ターミナルスクエア内 (電話) 086-224-2336			
設置者名		設立認可年月日	代表者名	所在地			
学校法人三友学園		昭和61年7月26日	理事長 池田 基熙	〒 700-0024 (住所) 岡山県岡山市北区駅元町1番4号 ターミナルスクエア内 (電話) 086-224-2336			
分野	認定課程名	認定学科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度		
工業	工業専門課程	情報スペシャリスト学科	平成 7(1995)年度	-	平成28(2016)年度		
学科の目的	日々進化する情報処理業界で活躍するために必要となる、実践的かつ専門的なチームでのシステム開発における知識やプログラミング、技術力、専門力を証明する高資格の取得をめざす。また、企業や組織での業務知識を学び、ヒューマンスキルの高い上級システムエンジニアを育成する。						
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	【取得可能な資格】基本情報技術者試験 応用情報技術者試験 情報処理安全確保支援士試験 ネットワークスペシャリスト試験 AI検定 他 【中退率】 2% 退学者3名(令和5年度 入学者含む) 期中転科入者1名 卒業者含む期末在籍者数121名						
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入 2,692 単位時間 単位	1,210 単位時間 単位	970 単位時間 単位	722 単位時間 単位	0 単位時間 単位	0 単位時間 単位
生徒総定員	生徒実員(A)	留學生数(生徒実員の内数)(B)	留學生割合(B/A)				
120人	110人	0人	0%				
就職等の状況	■卒業者数(C)		43	人			
	■就職希望者数(D)		42	人			
	■就職者数(E)		41	人			
	■地元就職者数(F)		12	人			
	■就職率(E/D)		98	%			
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		29	%			
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		95	%			
	■進学者数		0	人			
	■その他						
	アルバイト就職		(令和 5年度卒業者に係る令和6年5月1日時点の情報)				
■主な就職先、業界等		(令和5年度卒業生) 【業界】IT業界 他 【就職先】(株)トスコ、(株)湯山製作所、(株)ワードシステム、(株)テラスカイ、(株)ビジネスコム、セリオ(株)、JTP(株)、ソルクリエイト(株) 他					
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 有 ※有の場合、例えば以下について任意記載 評価団体: 一般社団法人専門職高等教育 育賞保証機構 受審年月: 平成31年2月 評価結果を掲載したホームページURL: https://www.oic-ok.ac.jp/assets/document/about/2019.pdf						
当該学科のホームページURL	https://www.oic-ok.ac.jp/						
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A: 単位時間による算定)						
	総授業時数		2,902 単位時間				
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		0 単位時間					
うち企業等と連携した演習の授業時数		39 単位時間					
うち必修授業時数		2,692 単位時間					
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		200 単位時間					
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		39 単位時間					
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		200 単位時間					
(B: 単位数による算定)							
総授業時数		単位					
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		単位					
うち企業等と連携した演習の授業時数		単位					
うち必修授業時数		単位					
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		単位					
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		単位					
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		単位					
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)		0人				
	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)		3人				
	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)		0人				
	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)		0人				
	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)		0人				
	計		3人				
上記①~⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数		3人					

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

IT技術者として、ユーザーが求めるシステムを構築するために、高い技術力と豊かなコミュニケーション能力を備えた人材の育成を目指す。そのために、システム化に向けた動向やシステム開発技術についての知見のある方々に教育課程編成委員を依頼し、システム業界を中心に、ソフトウェア開発における実状と求められるスキル等について意見や提案をいただき、カリキュラム・授業計画等に反映させる。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

高度なIT技術者(ネットワーク技術者、情報セキュリティ技術者、AI技術者)育成のために、システム業界関係者および岡山情報ビジネス学院関係者で構成された「教育課程編成委員会」を岡山情報ビジネス学院内に設置する。年間2回以上開催される委員会にて教育課程の編成に向けた意見・助言等を受けカリキュラム等の開設・改善・工夫等を行う。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和6年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
鈴木 敦夫	特定非営利活動法人エルピーアイジャパン 理事長	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日(2年)	①
須藤 尚慶	アララ株式会社 執行役員 ソリューションシステム管掌	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日(2年)	③
松下 稔	株式会社システムズナカシマ ソリューション開発部ソリューション開発第2グループ 課長	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日(2年)	③
妹尾 潤	専門学校 岡山情報ビジネス学院 教務課長補佐(ITエンジニア学科群)	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日(2年)	—
藤井 克俊	専門学校 岡山情報ビジネス学院 情報スペシャリスト学科 学科長	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日(2年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(9月、1月)

(開催日時(実績))

第1回 令和5年9月4日 16:00～18:00

第2回 令和6年1月22日 16:00～18:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

学生同士が議論をするような場を頻りに設けるカリキュラムを作成すること。様々なやり取りの中で、必ずしも答えが1つではないことを学ぶことができる。また、価値観の違いを見つけそれを認め合うこともできるようになる。学生が在学中に対面でのコミュニケーションをとる機会が多く、慣れていることは、企業としても求めている。

顧客提案の際には、ウォーターフォール型の開発プロセスを検討することも多いが、最近の動的開発手法を補う授業にも取り組むこと。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

システム業界で即戦力で活躍できる技術者を育成するために、業界でソフトウェア開発に関する業務コンサル、システム設計、開発、運用監視、Webコンテンツ作成を主要業務に携わっている技術力の高いシステムエンジニアとして活躍している方から、直接助言や協力が得られる体制をとることが可能な企業様を選定し、講義していただく。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

主に担任教員が実習内容の詳細について連携企業と受入の確認と調整を行う。実習期間中は学科教員が各連携企業を訪問し、学生の状況を確認するとともに、実習担当者と情報交換を行う。実習終了後には、実習担当者による学生の学修成果の評価と、実習日誌などをふまえ、担任教員が成績評価を行う。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
セキュリティ演習	セキュリティ事業を行う企業と連携をし、現場で必要となる知識について学習する。	ブロードバンドセキュリティ株式会社
キャリア実習Ⅰ	実際の現場で実習することにより理論と実践の相互関係を理解し、基礎的な知識・技術力を身につける。	株式会社日本オフィスオートメーション、株式会社ワードシステム、株式会社シンカテクノロジー、株式会社テクノデジタル、株式会社アルク 等 全20社
キャリア実習Ⅱ	実際の現場で実習することにより理論と実践の相互関係を理解し、基礎的な知識・技術力を身につける	ソルクリエイト株式会社、株式会社ティファナ・ドットコム、株式会社プロビズモ、株式会社はれコーポレーション、トリツ機工株式会社 等 全34社

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

教員の資質向上や専門分野の知識向上を目的とし、学内研修・学外研修・自己啓発研修等の年間研修計画を立て、学科教員が受講する。また、研修受講後は、研修報告書の作成と他関係者に対する研修内容の共有を行う。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名: 情報系教員のためのGPTを搭載したアプリ開発	連携企業等: WillBooster株式会社
期間: 2023年12月19日、20日	対象: 情報系教員
内容: 学校教育での生成AIの活用や、GPT搭載アプリケーションの開発手法について	
研修名: Linux & Open Source アカデミックパートナーズフォーラム	連携企業等: 日本アイ・ビー・エム株式会社
期間: 2023/6/30	対象: 情報系教員
内容: LinuxおよびOpen Source Softwareの活用事例の紹介と取り組みについて	

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名: 「志セミナー」赤磐市地域おこし協力隊 戸田洋美さん講演	連携企業等: 赤磐市地域おこし協力隊
期間: R5年6月14日 10:00-12:00	対象: 教務課職員
内容: 第一線で活躍されている方の姿勢や熱い想いに触れることで、自らの人生を切り拓く志を学ぶ。目的のために何が出来るか、周りに協力してもらうために何を伝えるか。そして、諦めない！というマイルールを決して曲げないという講演。	
研修名: LGBTQ研修	連携企業等: 一般社団法人にじーず岡山
期間: R6年2月22日 13:00-15:30	対象: 全職員
内容: 研修をきっかけに教職員一同、性的マイノリティ(LGBTQ)に関する知識を身につけ、正しい理解を得る。当事者の学生から相談を受けた際の適切な対応を可能とすることを旨とする。	

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名: Linux研修「なぜLinuxについて学習をする必要があるか」	連携企業等: LPI Japan
期間: 令和6年5月26日	対象: 情報系教員
内容: 実際Linuxサーバーの稼働数の紹介や、Linuxスキルの活用について具体的に紹介する	

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名: 「志セミナー」株式会社ミアーズ 代表取締役 前村美樹さん講演	連携企業等: 株式会社ミアーズ
期間: R6年6月13日 9:30-10:30	対象: 教務課職員
内容: 業界をリードする経営者を講師に迎え、自身の経験を踏まえながら、「変化する時代に生き抜く力を身に付ける方法」「自身の力でキャリアをデザインする生き方」について講演いただく。自分自身の人生や社会課題の解決について考える機会とし、一人ひとりのやる気と行動の原点につなげていく。	

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

自己評価の評価結果について、学校関係者として卒業生、保護者とともに企業等による評価を行い、自己評価結果の客観性・透明性を高める。また、本校の教育方針である「即戦力となる人材育成」「ビジネスマンにふさわしい人格形成」「ニーズに対応したカリキュラム」に基づき、地域社会に貢献できる人材の育成に結び付けるために、関係者の理解促進や連携協力による学校運営の改善を図ることを目的とする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	教育理念・目標
(2) 学校運営	学校運営
(3) 教育活動	教育活動
(4) 学修成果	学修成果
(5) 学生支援	学生支援
(6) 教育環境	教育環境
(7) 学生の受け入れ募集	学生の受け入れ募集
(8) 財務	財務
(9) 法令等の遵守	法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献
(11) 国際交流	なし

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

担任制、卒業生の社内での評価などは、良い評価をいただいたので、今後も退学防止などの課題に取り組んでいく。特に、教師の力量による差が、退学、就職などすべてに影響するため、その差を解消できるように教員研修を継続する。また、非常勤教師の採用も行い、学生サービスの充実を図る。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
守井 照久	税理士法人創明コンサルティング・ブレイン 代表社員	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日(2年)	企業等 委員
早崎 律貴	スマートスケープ株式会社 VX事業部 開発部 部長	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日(2年)	卒業生 企業等委員
石崎 公生	株式会社アドボックスフォトグラフィ 代表取締役	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日(2年)	PTA
山本 涉	医療法人和香会 倉敷スイートホスピタル 運営企画室 室長	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日(2年)	企業等 委員
豊田 東	岡山国際ホテル 総支配人	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日(2年)	企業等 委員
真鍋 洋志	菅公学生服株式会社 取締役	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日(2年)	企業等 委員
山下 秀男	株式会社イケル 代表取締役	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日(2年)	企業等 委員
北牧 涼輔	NAYUG合同会社 代表	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日(2年)	企業等 委員
浦谷 友章	自衛隊香川地方協力本部 東讃地区隊長	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日(2年)	企業等 委員
畑 嘉昭	株式会社トスコ 専務取締役	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	企業等 委員
芳原 慶真	コーセーエンジニアリング株式会社 総務部長	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日(2年)	企業等 委員
平野 彰一	社会福祉法人岡北福祉会 岡北学園 理事長	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	企業等 委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://oic-ok.ac.jp/assets/document/about/info/02--new.pdf>

公表時期: 2024/10/1

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校の教育方針やキャリア教育、職業教育をはじめとした教育活動等の状況を提供する。また、それぞれの学科の目標検定や就職実績についても情報を提供し、公的な認可を受けた教育機関として誠実な対応を行い、説明責任を果たす。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	OICの教育方針、心の推進プロジェクト、プライバシーポリシー(個人情報保護法)
(2) 各学科等の教育	目指す業界・職種、目指す資格と資格取得実績、就職実績、カリキュラム
(3) 教職員	教職員数、教員の組織、教員の専門性、教職員の研修
(4) キャリア教育・実践的職業教育	就職支援等への取り組み支援、企業等との連携による取組・キャリア教育への取組
(5) 様々な教育活動・教育環境	教育活動・校舎、施設紹介、学校行事、課外活動
(6) 学生の生活支援	学生支援への取組状況(スクールカウンセラー)
(7) 学生納付金・修学支援	学納金、独自の奨学金制度・学費支援制度
(8) 学校の財務	財務状況
(9) 学校評価	学校評価、学校関係者評価
(10) 国際連携の状況	なし
(11) その他	なし

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ・) 広報誌等の刊行物 ・ その他()

URL: <https://oic-ok.ac.jp/>

公表時期: 2024/6/1

授業科目等の概要

工業専門課程 情報スペシャリスト学科															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
								講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
必修	選択必修	自由選択													
1	○		コンピュータ概論	テクノロジー分野（基礎・応用分野）、マネジメント・ストラテジに関する知識を学ぶ。経済産業省 基本情報処理技術者の午前分野合格レベルの知識を習得。	1前期	96	4	○	△		○		○		
2	○		ネットワーク・セキュリティ	ネットワーク・セキュリティに関する知識を学ぶ。経済産業省 基本情報処理技術者の午前分野合格レベルの知識を習得。	1前期	33	2	○	△		○		○		
3	○		プログラミングⅠ	JAVA言語の知識を学ぶ。（基本文法から、関数）	1前期	69	4	○	△		○		○		
4	○		アルゴリズム概論	プログラムの処理手順を学ぶ。経済産業省 基本情報処理技術者の午後分野合格レベルの知識を習得。	1前期	81	4	○	△		○		○		
5	○		ビジネスアプリケーション演習	Windows及びWord, Excel, PowerPointの基本操作と書類作成の方法を学ぶ。	1前期	30	2	△	○		○		○		
6	○		ペン字	履歴書やビジネス文書等で書く文字バランスを身につける。	1前期	15	1	△	○		○			○	
7	○		ビジネス実務Ⅰ	就職活動のプロセスの理解を深め、具体的な行動を起こせるよう自主性を身につける。	1前期	35	3	△	○		○		○		
8	○		プログラミングⅡ	JAVA SE範囲のオブジェクト指向プログラミングを演習を通して学ぶ。	1後期	60	4	○	△		○		○		
9	○		情報リテラシー	演習を通じて情報技術の基礎知識について学ぶ。経済産業省 基本情報処理技術者の午前分野合格レベルの知識を習得。	1後期	32	2	△	○		○		○		
10	○		情報処理技術者Ⅰ	経済産業省情報処理技術者レベルの知識を学ぶ。適宜模擬試験を実施し、実力の確認と応用力を培う。	1後期	92	4	△	○		○		○		
11	○		フロントエンドⅠ	HTML5、CSS、JavaScriptを使用してWebサイトの制作技術を学ぶ。	1後期	49	3	○		△	○		○		
12	○		データベース	データベースの基礎理論やデータベース管理システムの役割・SQLなどの基礎知識を学ぶ。	1後期	50	3	○		△	○		○		

工業専門課程 情報スペシャリスト学科																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
13	○			インフラ I	インターネットサーバーとして、企業などで多く採用されているオペレーティングシステムであるLinuxの基礎を学ぶ。	1後期	46	3	○		△	○		○		
14	○			システム設計	システム開発におけるドキュメントの作成方法と、チーム開発における手法を学習することで、システム開発に必要な関連技術を習得する。	1後期	49	3	○		△	○		○		
15	○			ネットワーク演習	ルータやL2スイッチの役割を理解し、基本的なネットワーク構築ができるようになるための知識、技術を身につける。	1後期	49	3	○	△		○		○		
16	○			ビジネス実務Ⅱ	基本的なビジネスマナーについて社会人常識マナー検定を通じて習得する。	1後期	17	1	△	○		○		○		
17	○			キャリア実習Ⅰ	実際の現場で実習することにより理論と実践の相互関係を理解し、基礎的な知識・技術力を身につける。	2前期	80	2			○		○	○		
18	○			情報処理技術者Ⅱ	経済産業省情報処理技術者試験に向けた学習。適宜模擬試験を実施し、実力の確認と応用力を養う。	2前期	91	4	△	○		○		○		
19	○			サーバーサイドⅡ	サーバーサイドⅠで学習したJavaのシステム開発の技術を総動員し、プロジェクト演習を学習する。	2前期	62	2	△	○		○		○		
20	○			フロントエンドⅡ	ブラウザ上でのオブジェクトの操作など、javascriptの基礎知識の学習とプログラミング力を習得する。	2前期	63	4	○		△	○		○		
21	○			開発技術	システム開発におけるドキュメントの作成方法やチーム開発ツールの使用方法を学習する。	2前期	57	3	○		△	○		○		
22	○			インフラⅡ	サーバーの役割や基礎知識の学習、仮想環境を用いたサーバ構築、およびコンテナ型の仮想環境を作成、配布、実行の演習を行い、応用力を身につける。	2前期	65	4	○		△	○		○		
23	○			プレゼンテーション技法	効果的な発表を行うためのプレゼンテーション技法と、実社会において必要なパワーポイントの技法を習得する。	2前期	30	2	○		△	○		○		
24	○			ビジネス実務Ⅲ	実社会で求められる挨拶や立ち居振る舞い等を実践も踏まえて習得する。	2前期	24	1	△	○		○		○		

工業専門課程 情報スペシャリスト学科																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
25	○			セキュリティ演習	セキュリティ事業を行う企業と連携をし、現場で必要となる知識について学習する。	2前期	39	2	△	○		○		○		
26	○			キャリアプランニングⅠ	ニュースや新聞からIT業界の業界動向を調査し、将来目指す業界理解を深める。	2通年	16	1	○		△	○		○		
27	○			キャリア実習Ⅱ	実際の現場で実習することにより理論と実践の相互関係を理解し、基礎的な知識・技術力を身につける。	2後期	120	4			○		○	○		
28	○			情報処理技術者Ⅲ	経済産業省情報処理技術者試験に向けた学習。適宜模擬試験を実施し、実力の確認と応用力を培う。	2後期	88	4	△	○		○		○		
29	○			サーバーサイドⅢ	サーバーサイドⅡで学習したJavaの技術を応用し、サブレット/JSPを用いたWEBアプリ開発を行う。	2後期	107	4	○		△	○		○		
30	○			PBL	コンテストでの入賞に向け、WEBアプリケーション開発をチームで行う。	2後期	107	3			○	○		○		
31	○			インフラⅢ	ルータ、L2SW等の基本的な設定方法、ルーティング設定、VPN設定などの必須技術を実機演習を通じて身に付ける。	2後期	32	2	○		△	○		○		
32	○			ビジネス実務Ⅳ	社会人としてすぐに働くことを想定したマナー・考え方・一般常識の習得する。	2後期	59	3	△	○		○		○		
33	○			キャリアプランニングⅡ	IT業界のトレンドについて理解を深める。また企業経営者からの講話を伺い、自分自身のキャリアビジョンを固める。	2後期	15	1	○		△	○		○		
34		○		ペン字上級	1年生で学んだ美しい文字を書くことの大切さをより深く理解する。ひらがな、カタカナの成り立ち、漢字基本点画、部首、筆順の解説により、バランスのとれた字形（行書体も含む）を学ぶ。また、筆ペンの使用も学ぶ。	2後期	15	1	△	○		○			○	
35		○		ビジネス英語	ビジネスの場で簡単な英語が話せる力や、メール文章を書く能力を身に付ける。	2後期	15	1	○	△		○			○	
36		○		エクセル上級	Excel2019（Expertレベル）を活用し、実務で使える資料作成能力を身につける。	2後期	15	1	△	○		○		○		

工業専門課程 情報スペシャリスト学科															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
								講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
必修	選択必修	自由選択													
	○		医療事務	医療保険の仕組みを理解し、簡単な医療費の計算を学ぶ。	2後期	15	1	△	○		○	○			
	○		表現	幼児期から親しんできた言語環境構成の基礎や作品製作技術を学んだり、体験したりすることを通して、自己表現やコミュニケーション力を身につける。	2後期	15	1	△	○		○	○			
	○		RPA実習	業務において、ミスをなくし効率的な業務が出来るように、作業自動化ツールを用いた自動化の初歩を学び、プログラムの思考力を養う。	2後期	15	1	△	○		○	○			
	○		情報リテラシー	業務で役立つWindowsの便利な機能や、社会に出てから必要となるセキュリティ知識やAIの活用方法などについて学ぶ。	2後期	15	1	△	○		○	○			
	○		データマーケティング	データを根拠に考え、新しいアイデアを考案するための方策を学ぶ。Excelを活用した分析手法についても修得する。	2後期	15	1	△	○		○	○			
	○		ファイナンシャルプランナー	身近なお金の知識やこれから必要になるお金の知識を学ぶ。投資など資産運用について基本的な知識を身につける。	2後期	15	1	○	△		○	○			
	○		法律リテラシー	実社会で役立つ、民法・行政法等の知識を事例を交えて学ぶ。身近で起こりうる法律問題について結論の方向性が見通せるようになることを目指す。	2後期	15	1	○	△		○	○			
	○		フラワーアレンジメント	ブーケ、ブートニア、ヘッドフラワー、会場装花を製作する。	2後期	15	1	△	○		○		○		
	○		ゲームプログラミング	ゲーム制作を通じてプログラミングを体験することで、順序立てて物事をとらえる考え方を身につける。	2後期	15	1	△	○		○	○			
	○		広告映像	会社の広報SNSなどに必要な写真の撮影、および動画制作を通して、情報や魅力をわかりやすく伝える力を身につける。	2後期	15	1	△	○		○	○			
	○		ビジュアルデザイン	デザインを使い、伝えたい情報を視覚的に表現する力を身につける。	2後期	15	1	△	○		○	○			
	○		世界事情	グローバル化の時代、将来国内外問わず、外国人とともに仕事をすることを念頭に、テーマ別国際事情の講義とグループワークやディスカッションを通して、国際的視野を身につける。	2後期	15	1	△	○		○	○			

工業専門課程 情報スペシャリスト学科															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
49	○			情報処理技術者Ⅳ	経済産業省情報処理技術者試験の学習。適宜模擬試験を実施し、実力の確認と応用力を身につける。	3前期	91	4	△	○		○	○		
50	○			サーバーサイドⅣ	Webフレームワークを用いたJavaの実践的なアプリケーション開発手法を学習する。	3前期	60	4	○		△	○	○		
51	○			AI概論	AIに関する基礎知識と利用用途について学習する。	3前期	40	2	○		△	○	○		
52	○			クラウドコンピューティング	パブリッククラウドを活用したインフラ構築及びアプリケーションのデプロイ方法を学習する。	3前期	38	2	○		△	○	○		
53	○			PBL実践	学内の他分野の学科と連携し、各業界の課題を解決するためのシステムを開発する総合実習を行う。	3前期	161	4			○	○	○		
54	○			ビジネスプランニング	業界のビジネスモデルの調査及び、ビジネスモデルの立案方法を学ぶ。	3前期	31	2	△	○		○	○		
55	○			ビジネス実務Ⅳ	システムエンジニアとして必要な業務知識や仕事の進め方を学ぶ	3前期	26	3	○		△	○	○		
56	○			卒業研究Ⅰ	3年間の集大成として総合的なアプリケーションを開発する。企画から要件定義、基本設計力を身につける。	3後期	38	1			○	○	○		
57	○			情報処理技術者Ⅴ	経済産業省情報処理技術者試験の学習。適宜模擬試験を実施し、実力の確認と応用力を身につける。	3後期	84	4	△	○		○	○		
58	○			卒業研究Ⅱ	3年間の集大成として総合的なアプリケーションを開発する力を養う。詳細設計から製造、テスト、リリースを行う。	3後期	216	4			○	○	○		
59	○			ビジネス実務Ⅴ	システムエンジニアとして必要な業務知識や仕事の進め方を学ぶ。	3後期	19	1	○		△	○	○		
60	○			ユーザマネジメント	ビジネスを「顧客視点」と「自社の利益の観点」の両面から捉え、課題に対し仮説を立て、それを検証・実践するスキルを身につける	3後期	15	1	○		△	○	○		
合計						46	科目	2692 単位（単位時間）							

卒業要件及び履修方法	授業期間等
------------	-------

工業専門課程 情報スペシャリスト学科															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
卒業要件：①必修科目及び選択必修選択科目の成績がC評価以上								1 学年の学期区分			2 期				
履修方法：【No. 1-16】1年次履修科目 46単位(803単位時間) 16科目								1 学期の授業期間			16 週				

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。